

# 京都府地震被害想定調査委員会

## 第4回地震動予測部会（地震動予測WG）の概要

- 1 日 時 平成18年10月25日(水)午後15時00分～17時00分
- 2 場 所 京都大学防災研究所D562
- 3 出席者 澤田委員、岩田委員  
事務局：京都府防災室 山本副室長、八木主事  
阪神コンサルツ 伊藤部長、山田  
中央開発 黒田支社長、東原部長、神原次長、王寺室長  
佐野、大西

### 4 議事概要

#### (1) 南部地盤モデルの検証【資料1参照】

乙訓地域（向日、長岡京他）において微動H/V探査を実施し、地盤モデルを修正  
2004年12月1日23時30分に発生した地震波形と、修正地盤モデルで試算した地震波形を比較し、検証を行った。

地域	現状	今後の方向性
向日市	実地震では、地震発生の数秒後に到達しているパルスがあるが、モデルでは再現できていない。	長岡京市には見られないパルスであるため、東側から来た波である可能性がある（西山断層で止まり、長岡京市へは伝搬しないと見られる）。 この点を考慮し、モデルを再度修正
長岡京市、八幡市	実地震のNS成分は比較的強い後続波見られるがモデルでは再現できていない。 EW成分も実地震の波の方が強い。	西側の断層がさらに落ち込んでいる可能性があり、この地域は断層の溝（地下の「谷」）の影響が想定される。 この点を考慮し、モデルを再度修正
宇治市（防災研）	実地震では、地震発生後6秒後に強い波がある。 実地震の波形を精査したが、地下から伝播してはいない。 表面波としては大きく、また、防災研以外の地点では波が見えていない。	この波がどこから伝播してくるか、調べる必要があるため、京都市内の地震波形（京都市と防災研鈴木教授が設置している地震計の波形）と比較する。

宇治田原町、 加茂町	後続波が概ね実地震と整合的に表現できるようになった。	完全に整合しているとはまだはいえない部分もあるが、少なくとも、「過小評価」にはなっていないため、地震動予測のためのモデルとしては妥当であると考ええる。
精華町	後続波は再現できているが、全体的に実地震よりモデルの方が大きく出ている。	
その他の地域	概ね整合している。	

(2) 表層地盤モデルについて【資料2 参照】

収集したボーリングデータなどからモデルを作成

表層地盤モデルに関しては、今後モデルの妥当性の検証を行う必要がある。

南部

統計的グリーン関数法で妥当性を検証

北部

2004年9月5日の紀伊半島沖地震の実測の最大速度値と、作成モデルの工学的基盤上の最大速度値を試算(司・翠川の式等で試算)したものとを比較するなどして、妥当性を検証

<この際の課題>

- ・小盆地の盆地効果を何らかの方法で評価しないと整合しないのではないかと。(特に亀岡盆地等ある程度深く、広い盆地が課題となるだろう)
- ・司・翠川の式は、震源が離れている場合や、マグニチュード5～8の範囲外の地震ではうまく妥当しない可能性があるのではないかと。

(3) 今後の方針

府南部地域の地下地盤モデルの再現性を向上させる。

表層地盤モデルの妥当性の検証